 ©2008 筑波大学生物学類

特集：国際学会参加報告

The American Society for Cell Biology 47th Annual Meeting 参加報告書

小笠原　絵美（筑波大学　生命環境科学研究科博士後期課程 2 年）

昨年 12 月 1 日ー5 日にわたってワシントン DC で開催された The American Society for Cell Biology 47th Annual Meeting に参加した。

学会参加が初めてでありどのようなものか分からないうえに、日本語の通じない国際学会ということで非常に不安を感じていた。さらに、学会参加の直前まで生物系支援によって行われている AsOBiNet というプログラムに参加しておりタイ・ベトナムに 2 週間滞在していた。その為、帰国後 3 日あまりで準備をしないといけないという非常にハードな日程だった。準備不足ではないか？ 初めての学会が国際学会で大丈夫なのだろうか？ 言葉は通じるのだろうか？等の不安を感じながら、ワシントンへ向かった。空港に降り立つと想像以上の寒さが待っていて、いよいよ着いたなと感じながらまず始めに会場に行った。

会場はワシントンの中心部に位置するコンベンションセンターという場所で、1 年中様々な学会や会議が行われている大きな会場だった。細胞生物学に関する幅広い研究分野から発表者が参加していて、セッション数（分野数）は 100 以上と多岐に渡り、演題数はポスター形式で約 3500、口頭発表で約 300、合計参加者は 3ー5 万人の大きな学会であった。また、予想以上にアジアやヨーロッパなどアメリカ以外の国からの参加者が多く、非常に国際色豊かなものだった。

この学会参加によって、科学的なコミュニケーション能力が向上したと感じた。通常の日常会話と異なる科学英語を話す事には慣れてはいないため、適切に主張を伝えることの難しさを感じた。しかし、直前まで参加していた AsOBiNet プログラムで行った 2 度の英語の研究発表が助けとなり、比較的スムーズなやり取りが出来た。また、研究内容や報告した成果に対する様々な意見や質問の中には研究を発展させるにあたって重要な点やアドバイスもあり、非常に有益だった。自身の発表以外の場でも学ぶことは数多くあった。特に、実験技術に関するセミナーの様なものは勉強になった。また、普段の研究生活では殆ど触れる事のない他分野の研究の発表を聞くのは非常に興味深く、新たな知識の獲得に繋がった。国際学会の参加は英語という共通語のもとに様々な国の人と科学の話だけでなく様々な話をすることもでき、自身の研究に関する能力の向上だけでなく国際感覚の向上等多くのことを感じることができ非常に有益な時間だったと感じている。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received April 25, 2008.